

# SDGsの

## 先駆け人を訪ねて

第一回

多摩ニュータウンで炭を焼く

祐乗坊さん

今年も多摩ニュータウンの一角に煙がたなびくシーズンの到来です。ここは多摩市立一本杉公園内にある炭焼き窯。11月から3月にかけて年3回「一本杉炭焼き倶楽部」が炭焼きをしています。代表の祐乗坊さんにお話を聞きました。

祐乗坊さんは本業の環境デザイナーとして緑に関わる傍ら、炭焼きを通して「里山の縁側」活動を展開しています。

で会員になった人もいますよ。何もなければ出会う機会のない見知らぬ同士が、炭焼き活動を通して新しい縁ができる、これを大切にしています。



「できた炭はどのように活用を？」

「活動のきっかけや、その特徴を教えてください」

伐採木がもったいない、という思いから、1987年にドラム缶窯を使って炭焼きを始めました。小中学校から依頼されて校庭で炭焼き体験教室を定期的に行っていたんですが、多摩ニュータウン30周年記念事業として1998年に当時の住宅・都市整備公団から依頼され、多摩市立一本杉公園内に耐火レンガ造りの本窯を作りました。多摩川の玉石など地元の材料を使い、市民参加で完成させたもので、玉石には参加者の名前が書かれています。その時に希望者を募って発足させたのが一本杉炭焼き倶楽部です。



私たちの炭焼きの特徴は、市内の公園の維持管理から発生する剪定枝や伐採木を炭材として使用していること。多摩市は都内で市民一人当たりの公園面積がトップクラスで剪定枝も大量に発生していますが、その一部でも市民の手で活用していければ、と思います。

冬場にクヌギやコナラ、ケヤキ、サクラなど1.4tを窯に詰めて、初日は炭材の熱分解が始まるまで深夜まで薪をくべ、約90時間で炭化します。一週間ほど冷やして約250kgの炭が取り出せます。

「人と人が出会う交流の場としても機能していますね」

この活動は市報やSNSでもお知らせして、関心のある方は参加も見学も大歓迎！春には窯の前で「炭焼きコンサート」もやります。

炭焼きの活動中は窯場が「里山の縁側」のように人と交流できる場にしようと、付近を散歩している人や立ち止まり活動の様子を見ている人には「声かけ」をしています。窯場前を「多摩よこやまの道」が通っていて歩く人が多いのです。窯場に誘い入れて会話が広がり、一緒にお茶を飲んで寛いでいく人もいます。会話がきっかけ

一本杉公園内にある古民家や公共施設で活用するほか、3.11の震災以降は、防災用備蓄燃料「たまニュー炭」として希望する学校やコミュニティセンター、住宅管理組合、自治会などに無償配布をしています。多摩ニュータウン環境組合のエコにこセンターで購入もできます。



それから、できた炭で焙煎したコーヒー豆の販売も始めました。公園の樹木の活用でコーヒーが飲めるなんて最高でしょう?!

\*購入はこちらから  
<https://minne.com/@coffeekiki>

「剪定枝の新たな活用もあるとか」

生木木工もやっています。自然の歪みが味になって面白いですよ。注文に応じて作ることもできます。地域の資源が地域の中で経済として回っていく仕組みができればいいですね。

また、最近では多摩市中央図書館の造成の際に伐採木が出たので一部は木工や炭のワークショップで活用し、一部は図書館内のベンチやテーブルに活用する「みどりの記憶をつなぐプロジェクト」活動にも取り組んでいます。



炭で焙煎したKiKiのコーヒー豆を持つ祐乗坊さん

先駆け人のプロフィール

1949年生まれ。東京都国立市出身。1985年から多摩ニュータウン在住。本業はランドスケープデザイン。(有)ゆう環境デザイン計画代表取締役。一本杉炭焼き倶楽部代表。造園家、炭芸家、木工作家、炭火焙煎家。連絡先:(有)ゆう環境デザイン設計+樹の工房&炭火焙煎珈琲豆工房kiki 連絡先:東京都多摩市落合6-1-1-107 TEL 042-339-9001